

## 特別支援学級に在籍する児童へのキャリア教育に関する事例的研究 ～児童の生涯における幸せに着目して～

教育実践高度化専攻  
教育実践リーダーコース  
浅川 浩佑

### I 問題の所在

中央教育審議会(2011)は、キャリアを「人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割や価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね」と定義し、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」をキャリア教育としている<sup>1)</sup>。

小学校におけるキャリア教育推進のポイントは、「社会生活の中で自らの役割や、働くこと、夢を持つことの大切さの理解、興味・関心を持たせること等が重要であり、働くことの意義を理解することや、自分ができることや、したいことを理解し行動することなどが必要」<sup>2)</sup>とし、児童が自身のキャリアについて夢や興味・関心を持つことの必要性を述べている。

また、特別支援教育におけるキャリア教育推進のポイントは「発達障害を含め障害のある児童生徒に対し、その自立や社会参加に向けて持てる力を伸ばすという観点から、個々の障害の状態に応じたきめ細かい指導・支援の下で、適切なキャリア教育を行うことが重要である」<sup>3)</sup>とし、障害のある児童生徒が、自己の抱える学習や社会生活上の困難について認識し、困難さを乗り越えるための能力や対処方法を身に付けることができるよう、個々の特性・ニーズにきめ細かく対応することが必要であるとしている。

特別支援教育におけるキャリア教育において、

藤井ら(2015)は、2学期の全35時間を通じて作業活動を行いながら働くことについて学習する「食品加工」の実践を行った。またその中で生徒の言動や記述の分析、評価による生徒の変容の見取りによって、所属する集団への興味・関心の高まり等により、生徒の自己肯定感の向上が見られることを明らかにした。また、生徒が判断する機会や、振り返りを多く設定する必要性があるとしている<sup>4)</sup>。稲垣(2012)は、小学校特別支援学級でのキャリア教育の取り組みとして、「読み書きや数の概念などの基礎を身に付けるための学習」「日常生活の指導(掃除、水やり等)」「休憩(娯楽活動)」の3つを授業時間中に設定し、それぞれの活動でコミュニケーション指導を随時行うことで、「すべきことが終わったら、好きなことができる」という生活リズムの定着を図り、就労した際に向けての習慣作りを行っている<sup>5)</sup>。

このように、特別支援教育におけるキャリア教育の実践では児童生徒に集団の中での個人の役割を持たせたり、生活習慣や規律を守ったりすることに重きを置いた実践が目立つ。

児美川(2013)はこうした職業生活上の適応力を指す「キャリア・アダプタビリティ」はキャリア教育を行ううえで重要であるとしている。一方で現在のキャリア教育の問題点を「キャリア教育の焦点が、職業や就労だけに当たってしまっている」として、いかなる職についてもそ

の人の根幹に通じている軸や価値観を指す「キャリア・アンカー」の大切さも述べている<sup>6)</sup>。

キャリアにおける価値観について、渡辺(2001)は、「目の前の選択を具体的な職業との関連からだけ見るのではなく、昇進を願っているのか、安定した生活が重要かのように、クライアント自身の生き方や考え方と関連づけながら、選択を援助することによって、目の前の選択がクライアントのキャリアを創造するのに繋がるように援助する」<sup>7)</sup>と就職や就労の先のキャリアをクライアントの生き方や考え方という価値観を踏まえたうえで見据える必要性を述べている。

特別支援教育におけるキャリア教育にて、児童の生涯を通したキャリアにおける価値観に焦点を当てた実践は管見の限り見当たらない。

## II 研究の目的

全校『学び合い』英語において、学習意欲の低い生徒の学習意欲は向上するのか否かについて明らかにする。

## III 研究の方法

### 1 調査対象

N県X小学校 特別支援学級 第5学年  
男子児童A

### 2 調査期間

平成28年度11月～12月

### 3 調査方法

ICレコーダーによる児童との会話の記録  
児童にとっての理想の就業や老後のあり方を対話によって導き出し、その様子をICレコーダーにて記録する。

### 4 分析方法

(T:調査者 A:対象児童)

週1回の児童との会話の中で、児童が自身の

キャリアをどう考えているのかを分析し、その変化を辿った。

## IV 結果と考察

自身の将来について抽象的なイメージしかもっていなかった児童が、自分なりの考えをもつようになった。

### 引用・参考文献及びWebサイト

- 1) 中央教育審議会:「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」, 2011.
- 2) 同上 1).
- 3) 同上 1).
- 4) 藤井朋子, 若松昭彦:「特別支援学級における社会的・職業的自立を目指した生活力を育成するカリキュラムの研究開発-キャリアマネジメントにおける「食品加工」の実践研究-」, 中学教育:研究紀要 No. 46, pp. 125-132, 広島大学附属東雲中学校, 2015.
- 5) 稲垣陽子:「小学校特別支援学級でのキャリア教育の取り組み」, 特別支援教 No. 46pp. 32-35, 東洋館出版社, 2012.
- 6) 児美川孝一郎:「キャリア教育のウソ」, pp. 44-81, ちくまプリマー新書 197, 2013.
- 7) 渡辺三枝子:「キャリアカウンセリング入門-人と仕事の橋渡し-」, pp. 18-20, ナカニシヤ出版, 2001.
- 8) 武田篤, 嶋宮幸恵, 藤井慶博:「学校現場におけるADHD(注意欠陥/多動性障害)の現状と課題-秋田県内の情緒障害学級の実態調査から-」, 秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要 No. 26, pp. 47-56, 秋田大学教育文化学部, 2004.

指導 西川 純